

令和6年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
林産部門

高い技術力と漁業関係者との協働によるトドマツ、カラマツの優良な苗木生産

○氏名又は名称 惣田 政宏

○所 在 地 北海道広尾郡広尾町

○出 品 財 技術・ほ場（苗ほ）

○受 賞 理 由

・地域の概要

広尾町は、北海道東部の十勝地方に位置し、北海道内では比較的夏が涼しく冬が暖かい穏やかな地域である。町の79%を森林が占め、うち民有林ではカラマツ及びトドマツを主体とした人工林が40%を占める。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

惣田氏は平成8年に有限会社惣田種苗園に入社し、令和3年に同社代表取締役役に就任した。「北海道内で一番優良な苗木の安定供給」を自身の理念に掲げ、森林管理局、北海道、民間から技術者を招聘して技術を研鑽するだけでなく新しい知見の習得にも努めている。現在は道内でも有数の70haの大面積ほ場でトドマツ、カラマツの裸苗を主にコンテナ苗も含む年間約160万本を生産している。

・受賞者の特色

（1）苗木にも人にも優しい生産技術

細根が非常に発達した活着の良い苗木を安定供給するため、通常、根系の充実等を目的として行う主根の根切りに加え、側根切り機を使用した側根の根切りも実施し、細根を発達させつつ、隣の苗木との根の絡まりを防止した苗木生産を行っている。また、霜害防止に灰色、日焼け防止に黒色の寒冷紗を使い分けるなど、常に苗木の生育にきめ細やかな配慮をしている。

さらに、ほ場の畝の長さは60m、畝と畝の間は5mとし、作業員や機械の移動経路を確保することで、大区画でありながら作業員の負担軽減と除草・掘取作業の効率化を両立している。

（2）漁業関係者と協働した苗木生産

同社創業の地であるえりも町では、かつて海に流出した土砂によって漁場が荒れたため、先人たちが森林づくりに取り組んだ結果、漁場が復活した。この経緯を惣田氏は真摯に受け止め、苗木生産に漁業関係者を受け入れることで、森林の重要性の理解の共有につなげている。同社の所在する広尾町周辺の漁業従事者やその配偶者を苗木の掘取りなどに積極的に雇用するため、始業・終業時間を早めるなど漁業従事者の生活サイクルに合わせる工夫をしている。

・普及性と今後の発展方向

出荷後の苗木の林地での活着にもこだわり、植栽するまでの苗木の取扱い方法を需要者に助言するなど、苗木出荷後の配慮も怠らない。裸苗の得苗率は道内でも群を抜いているが、令和4年からはコンテナ苗の生産にも着手し、コンテナ苗でも安定供給を目指して施設を拡張しつつ、地域に根ざした高品質な苗木づくりを目指している。